

令和元年度障害者自立支援協議会 研修会アンケート

『障害者の多様な働き方とその支援』 上村 勇夫先生

企業と福祉の垣根を超えるために必要な実践

令和2年2月5日(水)
18時～20時半

参加者 5 1 名 (内関係者 6 名)

アンケート回答数 4 0

※複数回答項目あり

ご自身について教えてください（該当する項目に○をしてください）						
1	1、障害福祉サービス事業所	【2 8】	2、相談支援事業所	【1 1】	3、ケアマネ・包括	【6】
	4、医療関係者	【2】	5、行政その他	【2】	※複数回答あり	

今回の研修の感想を聞かせてください（該当する項目に○をしてください）								
2	1、大変よかった	【2 0】	2、よかった	【1 6】	3、あまりよくなかった	【3】	4、よくなかった	【0】
	どうしてそう感じたか、理由を教えてください。							
※右記参照								

今後の研修について、開催時間として都合のいい時間帯は？（該当する項目に○をしてください）			
3	曜日：木・金	1、平日【2 7】	2、土日【7】
	時間帯：	1、日中【1 6】	2、夜間【1 9】
	取り上げてほしい研修テーマはありますか？		
・親御さんの高齢化と取り残される障害者の子供の問題について。			
・住まいについて（ハウジングファーストなど）			
・また上村先生の話が聞きたいです。			
・地域移行支援。			
・ギャンブル、アルコール等。			
・介護保険利用者第2号被保険者の就労支援へつなぐ方法。			
・障害児の支援方法。			
・東村山市内に於ける、地域一般社会資源との連携。多くの市民の中で、安心して充実した生活を送るために。			
・アディクションについて。			
・発達障害の理解、支援方法。			
・特例子会社の見学会を企画してほしい。			
・東村山の現状と交流。			
・多職種連携。			
・本日はありがとうございました。			
・介護保険と障害支援との利用をどう考え、どう利用すれば良いのか？			
・人材の確保について。			

その他 ご意見、ご感想があれば	
4	・毎回ありがとうございます。また参加させていただきます。
	・中小企業への従事する経験から思うのは、大企業にはそのようなシステムを導入することができるが、中小企業にもジョブコーチなどを派遣するシステムが整うといいなと思いました。
	・介護保険に関わる自立支援のサービス内容とはどのようなものがあるか知識を増やしたいと思った。
	・ワークがしにくかった。会場の設定やワークサポートスタッフの導入の工夫が必要か。
・ありがとうございました。	
・誰が何に困っていてどうしたいのかどのようなニーズを抱えているのかに焦点をあてて、支援していくことはどこの分野でも重要と感じた。生活状況が様々なことに影響を与えていることを改めて感じた。	

ご協力ありがとうございました

社会福祉法人 東村山市社会福祉協議会 基幹相談支援センター るーと

2. 今回の研修の感想を聞かせてください（該当する項目に○をしてください）、どうしてそう感じたか、理由を教えてください。

1、大変良かった（20）

- ・体験談が良かった。ありがとうございました。
- ・普段福祉の知識を専門家から講義形式で学ぶことがないため、新鮮で刺激となった。
- ・取り組みがとても良くわかった。
- ・あまり分からない部分に接する事が出来、興味がわきました。
- ・地域づくりでも住民のソーシャルサポートが必要であり、就労でも、企業の一般従業員のソーシャルサポートが重要だと気付かせて頂いた。
- ・内容がとても良かった。
- ・就労支援は生活支援の一面であることを再確認できた。
- ・先生の話が実際の事例を通した具体的なもので、興味がわきました。いつも高齢の関係ばかりなので障害の支援をしている人と話ができて新鮮でした。
- ・事例をふまえての研修はわかりやすい。
- ・実践的内容で自分の実践にいかせると感じた。支援計画の見える化として、具体的例を見せてもらって大変参考になった。企業との連携の重要性を把握できた。
- ・企業への定着支援を現場で行った経験を通して、障害者を雇用するうえでの重要な視点がわかりました。個人が会社に合わせていくという働き方から、会社が個人に合わせた支援を可能な限り行うという働き方が大切であると思います。

2、よかった（16）

- ・事例検討に時間をかけていたので、具体的なジョブコーチの流れ等多少把握できました。「先生の補足で少しずつご本人の情報がわかる」というのが実際の支援の現場での情報把握と似ている。個々の職員、周囲の人々からの情報、時間をかけないと全体がよく分からない！ネットワークの重要性が理解できた。
- ・私は精神科病院で就労支援そているので、その視点からとなりますが、精神障害を持つ方々は、不安定さを持ちながら、その障害とどう付き合いながら仕事をするか、それらとどう向き合うか、を考えたりすることが大事なのだとか常々感じています。そして、そういった方々と関わる自分たち、支援者側も、自分にとって働くとは何なのか、福祉の現場で働くとはどういうことか、自分とはどういう人間か、何を大事にしていきたいのかということを考えながら、関わるべきなのではないかとも思っています。企業側、福祉、医療側お互いの違いをまず知る、理解することはもちろん重要ですが、生産性や営利を求める企業と病状の安定を図る医療は時に相反する？対立？することもあります。本日のタイトルにある"垣根を超える"ことがどういうことか、その必要がどこまであるのか疑問があります。連携とはそもそも何なのか？ということも考えているところです。

3、あまりよくなかった（3）

- ・どちらかというところと一般企業向けの研修内容ではないか？「通所系サービス事業所が今回の主役です」はウソでした。グループワークについては「施設」での支援にも通じ、面白く感じました。
- ・内容は良かったのですが、様々な就労の場ということで企業だけでなく現状の福祉の場（作業所etc）の知識も知りたかったので、もう少し概論的な話を期待していました。あまり障害の知識がないので、いきなり発展系で少しびっくりした感じです。
- ・自己紹介が長かった（30分以上）。内容がためにならなかった。
- ・いいなあ。うらやましいなあ。個別対応してもらえるんだ。

- ・介護保険と障害のサービスが同時に併用できるという事例の情報を得た。
- ・障害者が企業で働き続けるための課題等の視点を学べた。
- ・あらためて自身の支援方法の見直し、支援するにあたり大切なことを思い出せました。
- ・就労支援する機会は今まであまりなかったが、今後の参考になった。
- ・ワークもアセスメントに活かすことのが出来るため、今後活かしていきたい。
- ・普段業務をしている中で、仕事を続けるための生活面がとても重要だと感じています。企業の方とどのように連携をとっていくかを考えたいと思いました。
- ・一般就労の場への情報の共有や、現場に役立つサポートのあり方を具体的にイメージできる例となった。
- ・ジョブコーチの方と普段お会いする機会もなく、具体的にどのような支援をされているのか知らなかった為、大変勉強になりました。ジョブコーチの方の関わり方もそうですが、企業内の従業員のほうが障害のある方にどのような関わり方をされているのかということも大変勉強になりました。
- ・ワークができて良かったと思います。先生が示してくださった就労継続モデル、よく勉強したいと思います。
- ・「ジョブコーチ」の役割等、具体的に知ることができた。

- ・就労と生活が密接につながっていることを改めて理解できた。先生の自己紹介に時間をとりすぎでは...。最後が駆け足に...。
- ・他事業所の方と話ができた事、グループワークをした事で勉強になった。
- ・障害者の方がどんなことで社会で困難感があるが理解出来ました。全体的には専門的な内容で難しく感じました。ソーシャルサポートの重要性が理解しやすく思いました。
- ・障害をもつ方の就労継続について、企業側の努力がわかってよかった。
- ・障害特性を知る、生活問題は何か？困難なことを●●することが必要。障害者の就労継続支援について学ぶ事が出来て良かったです。今後の仕事に活かしていきたいと考えています。ありがとうございました。
- ・就労支援の現状を知ることができた。